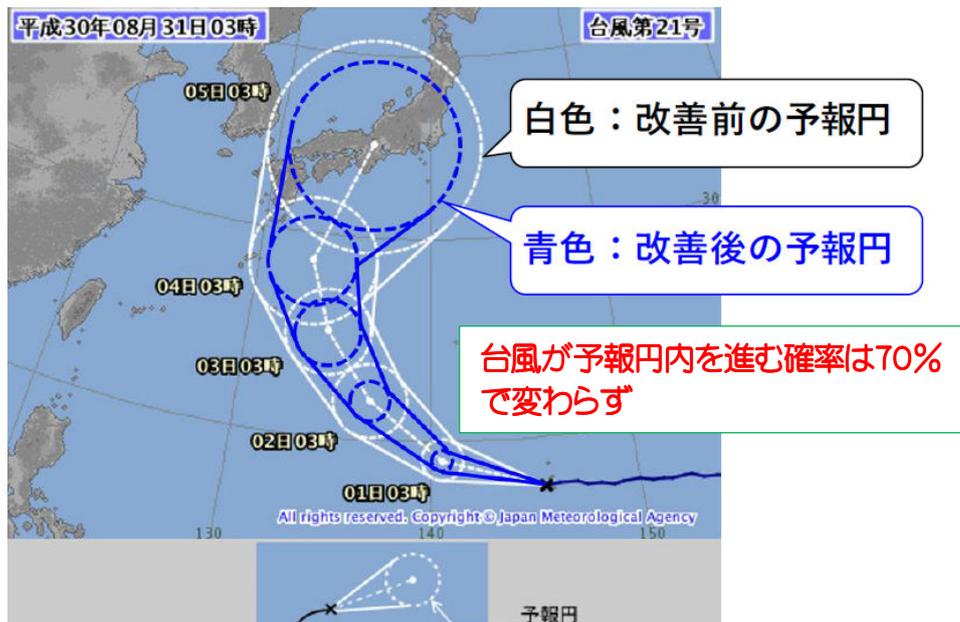


# 向洋本町自主防災会だより

《 第 16 号 》  
令和元年9月 15 日発行

- 今年から台風の子報円が約20%小さくなりました



今年本格的な台風シーズンが早まりました。例年どおりですと 10 月末までが要警戒の季節です。

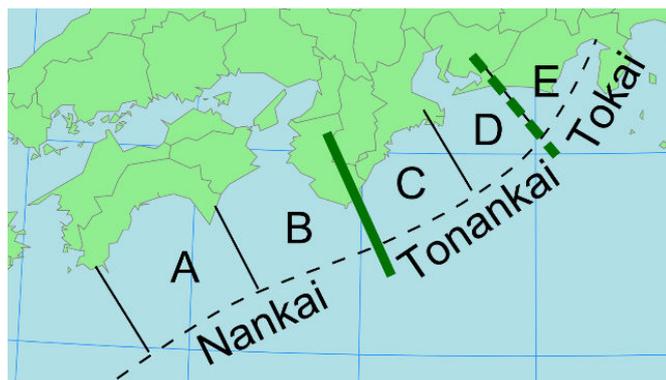
昨年運用を開始した新しいスーパーコンピュータの利用などにより、台風進路予報の精度は向上しています。気象庁はこれを踏まえ、台風の子報円の半径をこれまでよりも平均して約 20%小さくすることができるとして、今年6月から改善した台風予報の運用を開始しています(気象庁HPより)。

## 予報円の比較(平成 30 年台風第 21 号 8 月 31 日 03 時予報の例)

今年8月15日に広島県呉市に上陸した台風第10号でもみられましたが、風や雨が強くなるのはかならずしも台風の中心付近ではなく、中心から少し離れた場所になることがあります。

予報精度の向上により、台風は予報円の中を進むことが多くなりました。しかし、予報円の中心ばかりに注目するのはやめましょう。広島市が予報円の中に入ることが予想されていれば、大きな影響を受けるおそれがあると考えて、台風に対する備えをしっかりと行うことが大切です。

- 南海トラフを震源とする大地震(今後数十年以内に発生する可能性が高い)



## 南海トラフ大地震の震源域

南海トラフは、日本列島が位置する大陸のプレートの下に、海洋プレートのフィリピン海プレートが南側から年間数cm割合で沈み込んでいる場所です。この沈み込みに伴い、2つのプレートの境界にはひずみが蓄積されています。過去1400年間を見ると、南海トラフでは約100～200年の間隔で蓄積されたひずみを解放する大地震が発生しており、近年では、昭和東南海地震(1944年)、昭和南海地震(1946年)がこれに当たります。昭和東南海地震及び昭和南海地震が起きてから70年以上経過して

ており、南海トラフにおける次の大地震発生の可能性が高まってきています。今後発生するであろう南海トラフ大地震について、つぎのとおり想定されています。

- 地震の規模 :M8～M9クラス
- 地震発生確率:30年以内に、70%～80% (地震本部HPとウィキペディア(図)から引用)

このような地震が発生した場合、広島市南区では次のような被害が想定されています。

(「広島市の地震被害想定」(平成25年度)による)

- 最大震度:6弱(大きな揺れによる被害とともに、液状化による被害も懸念される)
- 津波浸水面積と面積割合(浸水深 30cm 以上):1227ha(47%)

南海トラフ大地震の津波の影響が出始めるまで約30分はあります。適切な避難行動を準備しよう!